

小山台高校、桜町高校、大山高校、北豊島工科高校、蔵前工科高校、葛飾商業高校の夜間定時制の生徒募集停止に抗議し、その撤回を求めます。また、立川高校定時制の生徒募集の再開を求めます

2025年10月23日

夜間定時制の存続を求める連絡会

東京都立立川高等学校芙蓉会（定時制同窓会）

立川高校定時制の廃校に反対する会

小山台高校定時制の廃校に反対する会

大山高校・北豊島工科高校定時制の存続を求める会

蔵前工科高等学校夜間定時制を守る会

葛飾区内の夜間定時制の存続を求める会

本日の教育委員会定例会は、小山台高校定時制、桜町高校定時制、大山高校定時制、北豊島工科高校定時制、蔵前工科高校定時制、葛飾商業高校定時制の来年度の生徒募集停止を決定しました。これまでまがりなりにも定例会の場で行われてきた請願及び署名数の報告・審議が何もありませんでした。2万5000筆を超える署名を無視し、定例会では何も議論がないまま強行されるという異常な事態となりました。

私たちは、この決定を絶対に認めることはできません。

その理由は、第一に東京都教育委員会（都教委）の募集停止の理由に何の根拠もないことです。都教委は、小規模な夜間定時制は「ホームルーム活動や学校行事などの特別活動が低調となり、集団活動を通した教育効果が十分に得られない」「多様な生徒同士の交流の機会を得ることも困難」と結論づけています。これほどの暴論はありません。夜間定時制高校では、少人数による丁寧な学習指導が行われ、アットホームな教育環境のもとで、生徒は毎日の授業や部活動、学校行事などに取り組んでいます。こうした教育効果を検証することなく、教育環境に課題があると決めつけるのは、学校現場の実態を見ない机上の空論に過ぎません。

第二に、都教委が募集停止の計画を明らかにしたのは昨年8月の「都立高校におけるチャレンジサポートプラン（案）」においてでした。わずか1年余で、6校もの夜間定時制高校の募集停止を決定したのです。該当校の教職員、生徒、PTA、同窓会、卒業生、地域住民に対する都教委からの説明会は一度たりともなされていません。該当校の関係者、多くの都民が何も知らない間に、6校の夜間定時制高校がつぶされてしまいます。学校と生徒を支援すべき教育行政の役割を放棄する暴挙です。

第三に、なぜ募集停止の該当校になったのか、その選定理由についてこれまで何も説明されていません。そればかりか、募集停止になった桜町高校、大山高校、葛飾商業高校の定時制は、小山台高校、江北高校の定時制の受け入れ校（代替校）となっていました。都教委が受け入れ校（代替校）として指定した学校まで募集停止にするのは、余りにも無責任です。

今春募集停止となった立川高校定時制には新入生はいませんが、現在、およそ100人の生徒が在籍しています。小規模な定時制ではなく、普通科では最大規模の定時制です。多摩地域の夜間定時制として多くの生徒を受け入れてきました。今春、募集停止となったため、都教委が代替校としたチャレンジスクールの立川緑高校に受験生が集中し、242人の生徒が不合格となりました。都教委は不合格者がその後どうしたのか、何の調査もしていません。立川緑高校の新設、砂川高校3部の増学級だけでは定時制高校に入学を希望する生徒を受け入れることができないことが明らかになりました。都教委はこうした事態を深刻に受けとめ、緊急対応として来春から立川高校定時制の生徒募集を再開すべきです。

私たちは毎年のように夜間定時制高校の存続を求める署名を集め、都教委に提出してきました。今年も本日までに2万5130筆の署名を提出しました。近年、不登校生徒や外国につながる生徒が多くなり、社会的にも貧困と格差が拡大するなかで、夜間中学や夜間定時制高校が注目され、期待が高まっています。困難を抱える生徒を多く受け入れている夜間定時制高校こそ、募集停止（廃校）ではなく、もっと充実させるべきです。そもそも、「誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実」という都教委の教育方針（本年3月決定）にも反するものです。

私たちは、6校の夜間定時制高校の募集停止に強く抗議し、その撤回を求めるとともに、立川高校定時制の生徒募集の再開を求めます。